

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	*	*	*
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・株価も年初以来、高値更新が続いており、経済が上向いてきている兆しがみられる。一方、新型コロナウイルス感染症が収束に近づいているとはいえ、まだまだ物販は景気回復の実感を得にくい業態であるが、これからも客のニーズに真摯に向き合うことが、数字を上向かせる要因につながるものと信じ、研さんを続けていくしかないと考えている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・まだまだ中小企業は賃上げ等も難しい状況だが、少しずつ客の行動が活発になっている。売上額が前年同月を少し上回り、客の来店状況も活気付いてきている。しかし、企業団体等の動きにはまだ若干の活発さが戻ってきていないように考える。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・年末年始、忘年会・新年会の需要が週末を中心にかなり伸びている。新型コロナウイルス感染症発生前くらいの調子に戻ってきており、特に飲食を中心に景気も大分回復していると考えている。
	○	その他小売 [ショッピングセンター]（総務部担当部長）	販売量の動き	・売上の状況などは前年比改善が続いているものの、一方でその改善トレンドには若干力強さに欠ける部分もみられる。
	○	旅行代理店（部長）	販売量の動き	・インターネット販売が好調である。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・地方都市の景気状況が好転する要素は見当たらない。経済と政治は直結するが、時代とともに政治の資質が国や地方を含め、低下している。さらに、混迷の度合いが深まるのではないかと懸念する。
	□	一般小売店 [文具店]（経営者）	来客数の動き	・正月明けから受注量は前月と比べ多少増えた印象もあるが、後半になるに従い前月と比べて鈍くなったようにみられる。例年であれば、年度末に入ると品物の動きが活発になるが、今のところその気配はない。
	□	一般小売店 [生花]（経営者）	それ以外	・注文数や来客数などが新型コロナウイルス感染症発生以前の水準に戻り落ち着いてきた。しかし、市場の入荷が少なくなっている。物価の上昇も心配だが、生産減少で品物によっては入荷がなくなっているものもある。
	□	一般小売店 [書籍]（営業担当）	販売量の動き	・売上は前年同月を下回ったが、支出も減少したため、感覚的には前年度と変わらない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・来客数や販売点数については前年との差異はほとんどみられないが、商品単価が上昇している。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・前年の9月以降、来客数が前年を上回って推移している。
	□	スーパー（統括担当）	販売量の動き	・1人当たりの購入点数が減っている傾向が続いている。物価高によって、売上は維持できているが、先行きは不透明である。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が伸びていない。買物をできる層とできない層に2極化している。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・原材料の価格高騰に天井がみられない。販管費や輸送費、光熱費が上がるが、収入が上がらないため購買が増える見込みがない。
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・例年どおり15日過ぎから寒さが厳しくなったが、今月20日以降の寒波により、本来は衣料店として良くならないといけない状況だが、余りの寒さにより客足が鈍り、それ以降ずっと業況が悪い状態が続いている。	
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・暖冬ということもあり、アウターやニット類が全く売れなかった。来客数も前年や前々年と比べて年末年始はかなり少なかった。客単価も低くなっている。何もかもが値上がりしているため、客は衣料品には余り金を使わないのではないかと考え、今年1年も厳しいとみられる。	

	□	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・前月と同様に、前年に比してやや上回る水準で推移しているが、顧客の反応は災害等もあったせいか余り良くなっていない。
	□	家電量販店(店員)	販売量の動き	・新生活準備も思ったほど増えず、必要最小限の物のみを購入する傾向が強い。
	□	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・インバウンド需要の地方拡大が徐々に進み、来客数を支えているが、能登半島地震の影響で旅行マインドの低下が懸念され、横ばいで推移するとみられる。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・給料は上がっていないが物価が上昇している。夜の外出頻度が減少している、といった顧客の声が多い。
	□	観光遊園地(主幹)	来客数の動き	・来場者数に大幅な変化がない。
	□	競輪競馬(マネージャー)	販売量の動き	・遊興に回せる余裕資金に、変動はないとみている。
	□	設計事務所(所長)	単価の動き	・建設費が高止まりしている。
	▲	一般小売店 [酒](経営者)	お客様の様子	・物価高の影響で、生活必需品の購入が最優先となり、酒類は敬遠されがちである。
	▲	スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数が前年を下回る状況が続いている。
	▲	コンビニ(店長)	販売量の動き	・来客数は、ほぼ前年並みの推移であるが、売上が減少している。商品単価が上昇しているなかで買い控えがみられ、消費が減少傾向にあるようにみている。
	▲	コンビニ(総務)	来客数の動き	・年末年始の人の動きは良かったが、それ以降、来客数が前年を下回っている。
	▲	家電量販店(副店長)	販売量の動き	・今月はテレビやエアコン、冷蔵庫、洗濯機といった主要商品4品目の販売量が前年比90%前後の数値である。具体的にはテレビが同比87%、エアコンが同比90%、冷蔵庫が同比96%、洗濯機が同比98%となっている。それ以外では、パソコンが同比61%であった。
	▲	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・生産が増えて登録台数は増加しているが、受注停止の車が多く、受注台数が減っている。
	▲	乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・諸物価が上昇するなかで、客は自動車の購入に対して慎重になっている。
	▲	都市型ホテル (経営者)	お客様の様子	・天災や政権政党の失態などからやや気持ちが曇りがちになっている模様。
	▲	美容室(経営者)	来客数の動き	・前年の12月にかなり客が動いたため、1月は大分落ち着いた印象になっている。
	▲	美容室(経営者)	お客様の様子	・正月が明けて成人式も終わり暇になった。
	×	その他専門店 [酒](経営者)	来客数の動き	・1月が最も不景気であり、景気は低迷している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・年が明けて新年になったが、前年の年末ほどの忙しさはなく、昼も夜も人が出ておらず、四国遍路も冬場はないため、一段と暇になった様子である。
企業 動向 関連 (四国)	◎	*	*	*
	○	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・バイオマスなどの再生可能エネルギーの仕事をしているが、少しずつ仕事が決まりだしている。バイオマスで肥料を作っており、これが売れ出したためである。
	□	農林水産業(職員)	受注価格や販売価格の動き	・青果物全般では、荷動きが低調に推移している。平年どおりの市場入荷であれば単価はやや安くなる。逆に平年を下回る入荷の場合は単価がやや高まるが、爆発的な価格上昇は起こりにくい状況が続いている。
	□	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・観光地や都市部では引き続きインバウンド観光客が多い状況で、消費も活況である。一方で、北陸地域では寒波や地震などの影響により、店頭への人出が減っている。また、前年来的商品値上げにより、多少の買い控えもみられる。
	□	鉄鋼業(総務部長)	受注量や販売量の動き	・造船及び産業用機械関連では、大きな変化はみられない。
	□	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・直近3か月、小規模な工事以外に新たな受注がない。

	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・雰囲気は悪いが、景気がそこまで悪いともいえない。
	□	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・東京本社の手顧客のCMは多かったが、地元企業の広告は少なく、トータルで変わらないという評価。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・ボランティア活動等の社外イベントの参加者数がやや増加傾向にあるが、大きな変動とはいえない。新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているとのニュースもあるが、現時点では影響が出ていないように見受けられる。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の業況をみると、受注や客足は好調であり、景気は回復基調にあると考える。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・業績の大きく変動している取引先がない。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少しており、厳しい状況である。
	×	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注が大幅に減少しており、特に戸建て住宅が減少している。そのなかでも注文住宅が材料の価格高騰により住宅メーカー各社が販売価格を引き上げ、販売が鈍化している。この傾向はしばらく継続する見込みである。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	雇用形態の様子	・公共施設（博物館・児童館・文化施設など）の利用者が前年比約120%で増加しており、新型コロナウイルス感染がいまだに続いているものの、警戒感はほとんどない。休日の活動が明らかに内から外に変化しているため、サービス提供者の人材不足がなかなか解消されない現状があり、業務の見直しとともに賃金改定が検討される必要がある。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・以前と同様に、派遣に登録する求職者の数が少なく、就労に結び付いていない状況が続いている。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・長引く採用難で、特に中途・即戦力採用はどの業種もおおむね苦戦している。そのため人員が充足していない企業が多い。新卒採用に目を向けても、地方の中小企業ではインターンシップの幅広い実施などに取り組む企業も増えてきたが、大手・中央企業に目を向ける学生が増え、同じく人員確保に苦戦している。
	□	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・前年同月比で、求人数が数百件減少した。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・業界的なことなのか単価が下がり手間が増えている。
	×	—	—	—